第３回　人権啓発キャラバン事業　参加者からのご意見

１．気づいたこと

・子どもの人権について、子育てのときに知っておきたかった。
・アクティビティで、思考を深められた。
・参加者の手が動いていなくても、学ぶ人は学んでいる。
・学校の授業に「人権教育」を必修化するのが良いのではないか！
・同じベクトルの人たちと人権について考えることはやはり楽しい。
・大人になると「人権」について学ぶ機会が少なくなる。今回のような企画を増やしてほしい。
・人権を守るためには相手の話をよく聞いて、自分の考えを相手に押し付けないようにすることが必要である。
・自分自身のもつ決めつけ、価値観について気づくことができました。また、どんな人も大切にされる社会であってほしいと思うけど、人生の中でそのことができない時代、考え方でできてこなかったことが理解できた。
・子どもの人権問題も外国人の人権問題も交流する機会がなくてコミュニケーションをとることができない、話し合うことができないことで、「子どもであるから」「外国人であるから」といった偏見からも生じると気づいた。
・知らないこと、知ろうとしないことが差別の根底にある。知識があれば、誤解もしないし、無駄に恐れることもなくなるのではないか。
・いつかちがう属性になって人権侵害を受けるかもしれない、自分も当事者になることがある。
・自分も自分の大切な人も守るためには、人権尊重の社会をつくることが大切。
・外国人への人権侵害が多いこと（地域のイベントとかだと良好と思っていた）。
・“こども”を“部下”に置き換えてみると、会社でも結構当てはまると思った。
・環境（私たちをとりまくものすべて）が大事だと思った。
・子どもの社会参画をもっと進めることができるといいと思うのですが、大人の意識の変化がまず必要だと思いました。あと、「待つ余裕」も。
・人権に関することに興味をもったら、まずは現状を知ってみる。今日のように多くの人の意見や考えを聞いて、自分が何をやっていくべきか、そう思える入り口になったこと。
・自分の当たり前、思い込みによって人を判断していたこと。
・人は生まれながらにして人権をもつこと。何かと引き換えに得られるものではないこと。
・意識せずに差別をしていることがないか。
・自分と同じでないことを避けていなかったか。
・1 人ではなかなか気づかないこともみなさんと話し合いながら、考えていくことの大切さ。

・「人権は自分だけでなく誰にとっても自分らしく生きるために必要な権利」わかっていたつもりでも、この言葉の深さ、世界の現状を見ても改めて考えさせられました。
・ワークショップを通して、様々なアイデアや考えに触れることができました。
・各テーマには共通点がある。
・興味関心のあるテーマとあまり知らないテーマがある。
・教員として働くうえで、どうしても学校の運営、自分の業務がスムーズにいく思考になりがちになっていること。
・思っている考えているのにやれていない、やっていないことがあることに気づきました。
・人権意識の高まり。
・いろいろな差別がある。SNS などで差別を助長させる人たちがいる。
・子どもの権利についての理解が足りていないと感じた。
・自分の中にも偏見や差別の種がある。
・よい雰囲気はよい学びにつながる。
・みんなで考えると学びは深まる。
・人権について「知ること」にアンテナをはることで意識は変わると思いました。
・人権について大切なことであるが日々の忙しさや時間に追われる中で無意識に差別していることがあると気づきました。
・見える化されていない問題がまだまだたくさんあったこと。
・教育を受けられない子どもがいること。
・外国人だからと、そもそも対話ができない、法制度になっていること。
・相手のことをしらないために、避けてしまうことがある。
・「子どもにも意見表明権がある」という点は新鮮でした。気づかせていただき感謝いたします。ただし、子どもが経験が浅いゆえに誤った判断をしやすいという点とどう折り合いをつけるかが難しいと思われました。
・外国人に対しては義務教育ではない。
・制度の違いで、外国で義務教育を９年修了できなかった人が中学卒業の年齢だと中学にも高校にも入れない。
・子どもは生まれたときから意思表明できる。
・子どもは大人に聞き入れてもらえないと諦めていく。
・当事者の声、当事者参加の大切さを気がつかせてもらいました。以前は大事だなと思っていたのに、忘れていた自分がいました。子どもの声や意見は大切だなと言いながら、子ども当事者をないがしろにしていることが往々にしてあります。子どもの人権を考えるときは、子ども参加で、改めて心したいと思います。
・子ども、外国人の権利が守られていないことを知ったのと同時に、「学校」がなぜそうした対応をせざるを得ないのかが正しく伝わっていないことに気づきました。お互いおだやかに語り合う場が必要だと思います。

・同じテーマでも人によって意味を違って理解したり、見え方が違うことを話し合うことで改めてわかり、面白かった。
・人権は守られているようで守られていない。明文化することで守った気になるのではなく、具体的に実行することが大切だと感じた。
・今日初めて出会った人々と原因や解決策を深く話せたことはすばらしい。
・お互いから学ぶことができた。
・自分がまだ知らない事実があることに気づき、多様な視点から物事を見ることができた。
・人生の先輩方とやることで、あらゆる視点から問題などを捉えることができるなと思った。
・思っている以上に、差別に加担してしまっていることがたくさんありました。知らず知らずのうちに差別の構図に組み込まれてしまっていたことに気づけてよかったと思います。
・多忙で課題の多い社会の中で他人に関心を持つことの大切さ、尊重を大切に。
・みんなで考えるのは楽しい、おもしろい。
・３回目だが毎回違うアイデアが出る。→正解はない。
・colabolation って楽しい♪
・普段は人権について話を聞いたり語り合ったりしないので、こんなにたくさんの仲間がいることに気づいて嬉しかった。
・子どもの権利も外国人の権利も、それを話し合う場、ルール作りの場に当事者がいないことが多いのはおかしいと気づいた。
・ワークショップで少しずつ、同じテーブルの人に配慮しながらワークをすることで、個々の意見も聞けたし発言もできました。こんな関係性が（少し隣の人のことを考えてみる、知ろうとする）学校や地域でもあれば（「人権」と声高に言わないでも）住みよい社会になっていくのではないかと思った。
・知らないことの多さ。
・知ることと一歩を踏み出す。
・不寛容でないと人社会。
・自分は majority 側であることを改めて認識。
・どんな人権があるのか、わかっていない部分がある。
・知らないことは恐れにつながっている。
・もっとできることがあり、あきらめてはいけないなと感じた。
・力を合わせれば、知恵が集まり、問題解決できそうだと元気がもらえたこと。
・このワークショップは数回参加して、たとえ内容が似ていたとしてもいつも心改める機会にとしている。
・いろんな年齢、ジャンル、カテゴリーの方々と学ぶのは楽しい。
・物事を考えるにあたり、グループ（少人数）で意見を出し合うことによりさまざまな（新しい）考えが出てくる。また気づかなかったことに気づくこともできる。

・現状、そこに携わる人の話を聞くことは大切。直接話を聞くことで課題意識もより高くなる。
・世代間で最初に思いつく意見が違う。
・全員に発言する意思がある場所はとても居心地がいい。
・外国人に対して自分と異なる考え方、習慣を受け入れる。
・性格ではないと感じた。

２．大切だと思ったこと

・多くの人とコミュニケーションで思考を深化することの大切さ。
・話し合うこと。
・外にでること。
・共に考える仲間がいることの大切さ。
・楽しみながら「人権」について学ぶ機会があること。
・子ども、外国人ともに同じ人間であること。
・コミュニケーションが取れるようにすること。
・子どもも大人と同じ人間。子どもを小さな大人として捉え、子どもの声に耳を傾けていきたいです。
・特に外国人に対して偏見をもたないように、まずはその偏見について知ることが大切だと思った。
・正しい知識を身につけること。
・知らないことで偏見をもつことをやめること。
・当事者を交えた研修が大事。
・知ろうとする努力が個人としては必要だし、自治体や社会はその場を設けることが大切。周知にも力を入れる。
・外国人も子どもも人！積極的に聞いてみる。
・マジョリティ側が手を差しのべる、みたいな上から目線×
・子どもは周りの大人の存在に強く影響を受ける。
・正しい知識を身につけること。
・新しい情報も知るようにすること。
・無関心をなくす。
・人権を守られていない人々について、知らない人はとても多いので、学校でもっとしっかり教える／考える制度が必要だと思います。「差別、人権侵害はいけない」ということも当然含めて。
・個人個人を尊重すること。
・他国の文化を知り、認めること。
・コミュニケーション。とにかく人の話を聞くこと。
・自分がそうだったら、、と相手の立場に立って考えること。
・受け手の側に立って考えること。
・社会的弱者に対する思いやり。
・子どもの人権、外国人の人権を大切にするために、何よりも私自身が学んで変わらなければと思いましたし、しっかりとコミュニケーションできるよう努力していかなければと思いました。

・同じ職種に限らず、いろいろな立場、世代の人が話し合い考えていくこと。
・誰しもいつ当事者になるかわからない。
・見えない暴力（人権侵害）の資料の「文化的暴力」の項目。
・一番基本的な人の話を聞くこと、コミュニケーションの重要さはわかっているけど、日常に戻ると忘れてしまいがち。
いろいろな制度、援助はあるけど、基本をおろそかにしてはいけない。
・子どもの人権を尊重できる守れる社会をつくっていくためには、子どもが参画できる学校にしていかなければならない。そのためには、子どもが忖度していたり、権利を知らないということがあってはならない。そのためにも、子どもに権利を伝えていくこと、態度で示していくことが必要だと思います。
・人権を疎かにする人は、自分もまた別の差別の対象となる。因果応報。
・大きなことをやるのではなく、少し勇気を出してみる、少し寛容になってみるといった小さな変化を積み重ねることが大切だと感じた。
・余裕（時間、お金、心）
・現場の声を聞くこと。
・「～にちがいない」と思わず、多方面から柔軟に考える。
・すべての人権において積極的に知ろうとすることが大切だと思った。受け身ではダメ！
・コミュニケーションをとること、どう交わるかが大切で、その交わり方のハードルを上げすぎてもいけないですし、軽視して異なった交わり方をしてもいけないと思いました。事前に知ることも大切であると思いました。
・行政に働きかけること。現行のままでは差別がなくならない。
・企業努力にも支援を。
・子どもでも外国人でもまずは話を聞いて、何を思っているか、考えているのかを知ることが大切だと思いました。
・子どもも外国人も相手のことを知ろうとする、耳を傾けることが第一歩であると思いました。
・制度の狭間にいる人の権利をこぼさずに守れるような特例を設けたり、狭間にいる人がいなくなるような制度に変える。
・意思疎通が思い通りにいかない相手（子ども＝語彙や表現少ない、外国人＝言葉の壁）の思っていることもくみ取るよう心掛ける。
・異なることを楽しむこと、そこからたくさん見えてくるものがあると思います。そういう人間でありたいと思いました。
・「しっかり聞いて受けとめる」。外国人も子どもも、声を聞いてもらえないまま「あなたのために」で物事を進められているし、自分もそうしてしまっていると思いました。
・人の意見をフラットに聞く心をもつこと。
・実行です。実行しなければ何も始まらない。理解力の向上、知識の増幅、積極性等すべて

において水準をあげる必要があると思った。
・何が起こっているのか？どう感じているのか？どうしたいと思っているのか？聴く丁寧さが大切だと思う。
・「余裕をもつ」や「早く帰る」などの個人の気持ち面も大切だが、それを支えるシステムを次世代が作っていくことが大切だなと感じた。
・常に自分が差別に加担していないか点検し続けること、知識を増やしていくしかないと思いました。「知らなかった」ことで傷つく人が増えない様に、学校現場でも人権教育について今まで以上に意識していきたいです。
・多様性を意識した学びの機会を増やすこと。
・人とコミュニケーションをとる。理解し合うためのスキルと心の余裕。
・待つこと、信じること、心のゆとりをもつこと、あそび。
・周りの人に伝えていくこと。
・いつも意識すること。
・当たり前を疑うこと。
・実感する。
・当事者意識。
・参加してみること。
・知ったことを知っただけでは終わらせない。
・当事者意識を入れることはファーストステップ。Majority が Minority の立場に「本気で」立つことが大切→自分事と捉えること。
・人権を侵害されている当事者が解決へのプロセスに参加できること。
・多様性を認めること、楽しむこと。
・知る→考える→行動する。
・差別をなくそう、終わらせようと考える人たちが、12/10 に集まっていることこそが希望であり、大事なことだと思った。
・共有の仕方を学校の先生に伝えたいな。
・様々な角度で物事を見る、考えること。
・話し合うことで自分にも言い聞かせることができる。
・様々な人と意見を交流すること。家族、職場は同じような考えになりやすい。
・ファシリテーターは意見を聞くだけでなく、簡潔にまとめてみんなに共有できる。
・人権問題、特に外国人関係だとどうしても持論から離れられないが、二項対立ではないプロセス思考によって、持論から離れ、他者の意見を素直に聞くことができる。
・正しい正しくないではなく、相手のことを理解するように、受け入れられるようになること。

３．これから実行しようと思ったこと

・子育てサークルに関わる人の子どもの人権意識の醸成。
・教師をはじめ、多くの市民への子ども・外国人の人権教育。
・国際理解教育での人権分野のプログラム作成。
・人権本を強化する。
・今回のような機会を見つけ、必ず参加する。
・生涯学習として人権について学び続けたい。
・自分の発言を押し付けない様にする。
・子どもの権利を子育て中の親に伝えていきたい。
・交流する機会がないのなら、大学のイベントなど自分から作りにいこうと思った。
・面倒くさがらず、恐がらず、交流をもち、知ろうとする努力をしていこうと思う。
・とにかく相手の話に耳を傾ける。
・人権について考え続ける。
・自分の興味があることばかりではなく、ちゃんと知ろうとする。
・イベント等への積極的な参加。
・会社内とか小グループの勉強会を企画。
・もっとコミュニケーションをはかる努力。
・ボランティアなどへの参加を増やしたいと思います。
・まずは個人でこのような会に足を運び、現状などの知識を得る。その上で、自分がまずなにができるかを考える。
・今の自分は放課後学童支援員の仕事なので、子どもたちの接し方を少しずつ変えていくことも必要と思った。
・コミュニケーション、交流の場に参加したり、声を聞くこと。
・様々な差別があることを意識し、解消のためにどう行動すればよいか考えていくことが必要。
・今も外国人の日本語教室のボランティア活動をしていますし、県の「初期日本語教育養成講座」にも参加させていただいていますので、今後も外国人と友情を深め、人権を守っていきたいと思います。
・伝えなきゃ伝わらない。自分が感じている課題は声に出していきたいと思いました。
・機会があればこういう場に積極的に参加し、「知る」機会を意識的に作り、授業などで還元していく。
・教育現場でもっと生徒の声の風通しを良くする。
・市と連携した授業実践。
・対話のスキルを学び、課題解決のプロセスをみんなに分かるように示していけるようにすること。学校やグリーフサポートの活動の場でやる。

・対立→対話へ。
・思わず昔の意識で人権に配慮しない言葉を使ってしまう。もう昭和ではない、、、平成でも。
・子どもに対する認識をアップデートするために、まずは学び直すことから始めてみます。
・頑張りすぎない、ときどき立ち止まる、思い込みかどうか確認する。
・勇気を出して新しいことをしてみる。
・このままでよいと思わず、「よりよい」を求めて努力する。
・知る努力を続ける。
・できることをする。
・自ら積極的に関わること。勇気を出すこと。
・自分以外の相手を理解しようとすることを心がけようと思った。
・自分も子どもがいますので、そこを軸に関わりを広げようと思います。誰もが関係できる仕組みを地域で作っていきます。自治会にも PTA にも会社にも関わっているので。
・外国語の勉強はずっと必要。
・理解しようとすることが大切。
・相手の話を聞いて、相手のことをしること。
・外国人の場合は文化や生活の違いを知ることも大切だと思った。
・外国人の方々と接することが多かったですが、大人が中心でしたので、子どもの外国人のいうことにももっと耳を傾けたいです。
・法律を学んで法曹にいく！
・いままで通り自分にできることはやっていきたいと思います。
・小学校の担任として、また 1 歳の子の親として、子どもたちの話を受けとめようと思います。
・外国にルーツをもつ子どもの支援をしたい。特に入管法で特別扱いを受けない立場の国籍者。
・人権への価値観の向上です。価値観があがれば、必然的に守るようになる。
・わからないことは聞いてみる。
・未成年がやれることはそこまで多くないが、啓発活動を行ったり、権利や差別などのことを、それに対する法律、知識を蓄えようと思った。
・本を読んだり講話を聴いたりするだけでなく、当事者とのかかわりをもつ、深めることをしていきたいです。
・ワークライフバランスを大切にし、誰もが生涯学習する機会を保障できる社会づくりに努めること。
・知らない研修の場に参加する。感じたことを伝える。
・ワークショップの研修をさせてと校長に言う
・まあいいかと思わないで、言葉にして伝えていく。
・ポルトガル語のあいさつを覚える。

・いろいろな人にトルシーダの活動を見ていただき知ってもらう。外国人も互いに成長し合える仲間になることを伝える。
・知って一歩を。
・支援している人や団体への支援。
・みんなで選挙に参加する。高齢者のための社会や政治にしない。
・マイノリティの意見を聞いて、市政に活かすよう今まで以上にアンテナを高くし、足を運び、質問や提案する。
・各種イベントは Mojority 向け／Minority 向けに設計されているので、ごちゃまぜにする。
・いろいろな文化を楽しめるようにしていきたい。
・人ならだれでももっている権利を忘れないようにしたい！
・「子どもの参画」を増やしていきたい。
・どの国からの外国人も生活を楽しむことができる日本とするために、できることを考え伝えていきたい。
・開かれた学校にするために、ＰＴＡ、保護者、職員そして何よりも子どもたち自身に学校をどうしたいか、おかしいと感じることは何か、どう変えていきたいのかをまず聴くことから始めたい。
・ルールメイキングを児童会中心に行う予定。
・自分が思い、考えたことはまずはアウトプットすること。
・相手の立場になるということを改めて実行する。
・学んだことを周りへ伝え、一緒に考える場をつくる。
・ファシリテーターになる。
・話し合いの場で二項対立を急ぐのではなく、場づくり、関係づくりしてから、社会課題に取り組んでいこうと思った。
・外国人、子どものことを他人ごととは思わない。自分に置き換えて行動できるように考え方を変える。